

しなやかに 駆け抜けていく

足回り リフレッシュ計画 **喝!** ヤれた走りに

快適な乗り心地の W210。しかしこの快適さは柔らかいバネとショックアブソーバーによるもの。使い込んでヘタってくればたちまち安定感は失われてしまう。ではどうすれば快適な乗り心地がよみがえるのか？ 足回りリフレッシュの、とある一つの計画を紹介しよう。

STEP 1 重要なのは基本メンテナンス

ロアアームブッシュを チェックせよ

■取材協力=セントラルオート



足にかかる力を受け止め、W210の快適な走りを支えているロアアームブッシュ。定期的に点検し、ヤレてきたらすぐに交換しよう。

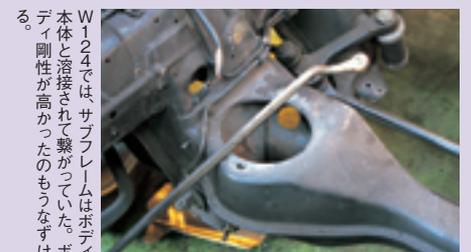
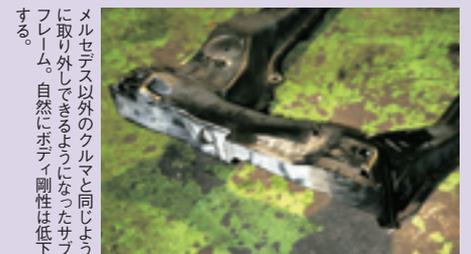


快適な走りを維持する上の 第一条件とは何か

先代型EクラスのW210。このクルマについて考えた時、ネックになるのはボディ剛性である。このモデルの先代型であるW124のサブフレームが溶接されていたのと違い、W210では細いボルト4本で留められているに過ぎない。ここがW210のボディ剛性に大きく関わっている。ところでこのサブフレームの弱さは、ボディ剛性だけでなく、サスペンションにも大きな影響を与えているといつ……。

W210はダンパーが細くアーム類の剛性もそれほど高くない。サスにかかって受け止め切れなかった力をどこかに逃がさないといけないのだが、その逃がす場所というのがロアアームブッシュなのだ。

「でもこのロアアームブッシュが弱いんだよね」とはセントラルオートのチーフメカニック、児玉善三郎氏の言葉。さらに児玉氏はこう続ける。



サブフレームの弱さがブッシュの重要性を高めた

メルセデス以外のクルマと同じように取り外しできるようになったサブフレーム。自然にボディ剛性は低下する。2本のピンと細い4本のボルトだけである。W124では、サブフレームはボディ本体と溶接されて繋がっていた。ボディ剛性が高かったのもうなずける。

強化タイプは無理 純正品を交換するしかない

「W210の走りを安定性させるには、このブッシュがどうにも弱いんだよね。だからといって強化ブッシュを入れると、これまでブッシュで受け止めていた力がサブフレームの方に逃げちゃう。そうするとこのサブフレームが捻れて、異音が出そうなんだよね。結局ブッシュは純正品をマメに交換していくしかない」

なるほど。サブフレームの弱さは、こんなところにも影響しているのか。「快適な走りを維持するには、ロアアームブッシュの健康が第一条件。このチェックはマメにした方が良い。だけどココだけがまともでも、ほかヘタつていたら、やっぱりブッシュに力がかかる。できるのであれば、足回り一気に換えちゃった方がイイよね。それとブッシュについての注意点をもう一つ挙げるとしたら、ローダウンしているクルマ。というの

普段使っているだけでブッシュは捻れるんだけど、そこからローダウンしたらさらに捻れちゃう。だから一度ブッシュを打ち直して捻れを取ってからの方が負担は減るよね。でもローダウンしている限りノーマルよりも負担はかかっているから、早めの点検、交換は必要だよ」

しなやかな足はブッシュ交換からなんです。ありがたいですよね。



ローダウンしているクルマは、ノーマルの状態よりもブッシュに負担がかかっている。通常より早めの交換が望ましい。